

## 作業所学会分科会 記録者用 事例・活動報告書

|   |   |
|---|---|
| 記録者名： 成川 哲平<br>（事業所） 社会福祉法人裾野市手をつなぐ育<br>成会 みどり作業所<br>役 職： 生活支援員 | 発表者名： 内田 哲正<br>（事業所） 社会福祉法人伊豆つくし会<br>伊豆つくし学園<br>役 職： 伊豆つくし学園施設長 |
|---|---|

### 【発表事業所の概要】

|      |   |
|------|---|
| 事業区分 | 入所施設  |
| 定 員  | 【施設入所支援】30名<br>【福祉型児童入所】12名   |
| 活動内容 | 【福祉型児童入所】18歳未満の障害のある児童を保護し、集団生活の中で基本的な生活習慣や社会自立の為の支援・育成を個別支援計画に基づいて実施している。<br><br>【施設入所】障害者総合支援法による生活介護及び施設入所支援を一体的に運営している。 |

### 【支援・活動対象者の概要】

|                    |                                 |
|--------------------|---------------------------------|
| 性 別                | 【施設入所支援】男性21名 女性9名<br>【福祉型児童入所】 |
| 年 齢                | 施設入所支援 成人<br>福祉型児童入所 9歳～18歳     |
| 障 害 の<br>種 別 ・ 特 性 | 主に知的障害                          |

### 【支援・活動事例の概要】

|       |   |
|-------|---|
| 目標・目的 | 今回は入所施設における役割の中でも、児童における支援に焦点を当てた。児童の生活や暮らしを守り、退所後の暮らしや学校卒業後の進路を共に考えていくことが目的であり、また在宅で生活している障がい者の暮らしや生活に何らかの支障が出た場合の受け皿としての役割も重要である。 |
| 計画・手段 | 入所施設を利用する児童には、措置や経過施設利用といった様々なケースがあり、問題行動も多岐に渡るため、入所施設だけではなく家庭や学校、児相など地域と連携しながら状況に応じた対応を行っていく。                                      |
| 内容・経過 | 今回の事例では、ネグレクト等の虐待案件での措置や緊急一時保護のケース、経過施設利用、日中一時支援、短期入所のケースなど様々な理由から入所施設を利用する児童を紹介した。課題や処遇も様々であり、ひとりひとり丁寧な対応を心がけている。                  |

|       |  |
|-------|--|
| 結果・課題 | <p>児童のケースでは問題行動は多岐に渡り、地域や家庭の問題がストレートに影響してくるため、保護者や学校、児相を巻き込んでの対応となり、時間や労力が非常にかかる。ひとりひとりの意見を聞き、アセスメントをしていきながら丁寧な対応をしていくことが必要であり、施設中の利用者さんの生活と暮らしを守り、自己完結型の支援と地域とどのように関連させていけるかが課題である。</p> |
|-------|--|

## 【意見交換】

(事例からテーマを抽出して)

- ① 入所施設は、障害を抱える本人や家族にとって親亡きあとの受け皿であり、ショートステイなどの緊急時の対応においても重要な役割を持っているが、他業種との交流が少ないため作業所の職員や地域住民がその役割や機能について十分理解していない課題がある。その役割や機能を周知していくことが必要なのではないか。
- ② 現在在宅で生活している当事者、家族にとって入所施設は直近の問題という意識が薄く、いざ必要となった時に準備が出来ていないといった問題がある。お試しでの利用などの取り組みを積極的に行い入所施設側、当事者側の距離を縮めることが必要なのではないか。
- ③ 地域移行や脱施設化といった観点から、GHと入所施設の利点や課題について意見交換が行われた。あくまでも当事者本人のニーズを最優先に考えることが重要。
- ④ 入所による生活の場の変わることで、作業所などの日中活動の場も変わってしまうというジレンマがよくあるため、生活の場と日中活動の場の切り分けが必要なのではないか。

……………など、幅広い話題が出て、意見交換が盛り上がった。

## 【まとめ】

(テーマに対する分科会としての結論や方向性)

今回は児童の事例を中心に入所施設の役割や機能についての知識を深めることができ、意見交換では入所施設の在り方や地域移行の話題まで広がりを見せ盛り上がり、暮らしの場という重要な局面における支援の難しさに対する苦悩も見られた。課題は多くあれども、利用者さんひとりひとりのニーズを第一とした丁寧な対応を心がけていくことが何よりも重要であるという結論となった。